

第2章 情報企画室図書担当

情報企画室図書担当教授(兼) 後藤 孝

図書係長・図書係職員 真籠 元子 / 図書係職員 富田 小満子 / 事務補佐員[3名]

1. はじめに

図書室では、1800年代から今日までの材料科学に関する、幅広い領域の資料を収集・所蔵している。金研が歴史的に金属・材料研究の中心であり、全国共同利用機関となっていること、さらに物質・材料学では世界の最先端にいたることから、所内・学内はもとより国内外からの研究者の来訪も多く、図書室は幅広いサービスを提供している。

図書室は、図書係として金研事務部総務課に属し、係長を含む職員2名、パート職員3名で業務を行っている。図書室の運営は情報企画室のもとで行われ、その専門委員会として図書電子化委員会(※)が設けられている。

業務の特徴としては、部局図書室として唯一附属図書館を介さず独自の図書受入・支払→目録・分類→登録の体制を維持し、研究者へ迅速に資料を提供している。また、学術情報の電子化が世界規模で急激に進展する中、図書室においても素早く適切な対応が要求されているが、これに対応するため若手研究者を中心に構成された図書電子化委員会と連携し、利用者の視点に立った電子化整備を推し進めている。研究者と図書室による情報整備に関わる委員会の存在は、学内唯一で特筆すべきことである。外国雑誌価格の高騰や、電子ジャーナル導入などの様々な問題に係る取り組みが全学的に行われる中で、本所ならではの利用者のニーズを把握しつつ、親しみやすく快適な図書室であるよう常に心がけている。

※図書電子化委員会

1996年図書電子化小委員会として発足。2004年3月までは総務委員会に所属。同年4月から本所組織改編により、情報企画室所属の委員会となる。図書室の電子化(特に情報検索サービス)をサポートし、研究者の視点から図書室充実のための提言をする。約2か月に1回開催。助教授2名、助手6名から構成。任期2年。オブザーバーとして、附属図書館商議員(情報企画室図書担当)と総務課長の2名参加

・ 2005 年度

小山佳一委員長、三谷誠司、大島勇吾、藤田全基、土屋文、大友明、中森裕子、山村朝雄、各委員

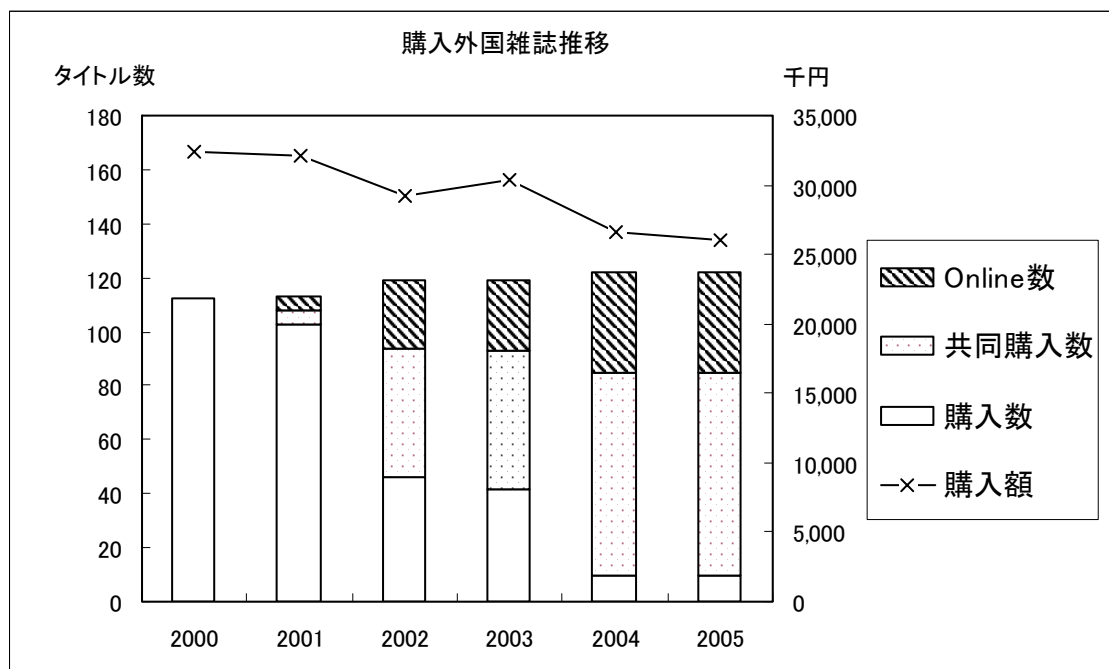
2. 外国雑誌および電子ジャーナル

2003年度より開始された「学術情報整備計画」に従い、外国雑誌については共同購入をしているが、2005年は前年と同様のタイトル維持となった。しかし、価格が毎年10%(全学で約5千万円)以上値上がり続けていることから、タイトルの維持が難しくなっている。それにより、2005年度は来年購入する外国雑誌のタイトル選定について、かなり踏み込んだ案を利用者に提示した。まず、外国雑誌の中で最大の Elsevier パッケージを中止するかどうかである。20%の中止を目標としていたがそれには到達できず、結果的にはパッケージを維持することにはなったが、利用者に対しての問題提示、切迫状況の提示にはなったと思われる。今後は、冊子体維持が難しい状況になると予想されることから、電子ジャーナルのみへの切り替えが迫られることになるであろう。

このほかに、金研では非共同購入の重複タイトルも全て中止することとし、内国雑誌(欧文)3誌を共同購入に推薦するなど来年に向けて負担額の節約に努めた。購入金額もここ数年抑え続けているが、毎年負担率の算出の仕方が変わるため、予算案を立てにくくなっている。

以上のことから電子ジャーナルの利用が多くなることは必至であるが、それに伴って大量ダウンロードなどの不正利用が問題となっている。このような行為はアクセス停止措置等につながり、他の研究者にとって多大な

損害となるが、金研としては独自に利用規則を定め、不正利用禁止のアナウンスや所内全利用者に対し適正利用についての同意書の提出を義務づけるなど、不正利用防止に積極的に取り組んできた。その結果2005年度は幸いにも不正利用は1件も発生せず、所内への周知が徹底したものと受け取っている。



*Online 数は共同購入のうちの電子ジャーナルのみ利用できる数

- ① 内国雑誌の共同購入については、2004年に日本金属学会発行の **Materials Transactions** の電子ジャーナルを金研独自で契約したが、2005年は工学部・多元物質科学研究所との3部局で共同購入とし、全学で利用できるようにした。内国雑誌はまだ共同購入を行っていないが、今後の足がかりとなるであろう。また、来年以降の全学共同購入として **Materials Transactions** と **Japanese journal of applied physics**, **Journal of the Physical Society of Japan** を共同購入に推薦した結果、**Materials Transactions** は全学共同購入となりその他の2誌については調整中である。
- ② 「国立情報学研究所が電子化する研究紀要」に金研刊行物「RITU」が採用され、国立情報学研究所において Full Text の公開に向け準備中である。
- ③ AIP Conference Proceedings (アメリカ物理学会会議録オンライン版)の無料トライアルを行った

3. 利用者サービスの充実

利用者との距離が近い部局図書室の利点を活かし、利用者にとってより身近で、行き届いたサービスを提供するよう、スタッフ全員で努力している。

3. 1 利用者向け講習会

毎年4月、金研の新メンバーのために図書電子化委員を講師に迎え、主要なデータベースの講習と図書室のオリエンテーションを行っている。さらに、附属図書館が随時開催する、新たなデータベースの説明会等の際は、金研の講堂での開催に積極的に協力し、学生や研究者がより効果的に利用できるようサポートしている。また、他キャンパスで行われるものについてもアナウンスしている。

開催日	内容	主催	参加者
2005.4.28	図書電子化情報サービス講習会	金研図書電子化委員会・図書係	32名
2005.9.29	Scopus (Elsevier 社)説明会	附属図書館	15名

3. 2 情報検索コーナー

図書室では図書電子化委員会のサポートを受けながら、多くのデータベースの中から有用なものを厳選し、図書室の情報検索コーナーで自由に利用できる環境を整えている。データベース用に WindowsXP パソコン4台、Online Catalog、電子ジャーナル用にそれぞれ1台(いずれも WindowsXP)を設置し、利用者が必要な時にいつでも使えるよう心掛けている。また安全対策として、ウィルスチェックソフトとハードドライブシールドソフトを導入している。近年、データベースのオンライン化が進み、研究室から利用できる環境が整ってきているが、図書室でしか使えない重要なツールもあり、今後も情報検索コーナーの充実を進めていきたい。

CD-ROM	オンライン
ICDD Cards (2005)	Online Catalog (図書館蔵書検索)
Binary Alloy Phase Diagrams	Online Journal
Ternary Alloy Phase Diagrams	Web of Science (1945～)
Pauling File	OVID Online (Current Contents 等)
Phase Equilibria Diagrams	inside web (1993～)
Landolt-Bornstein Comprehensive index	SciFinder Scholar (1840～)
その他電子 Book 等	Journal Citation Reports Web 特許電子図書館(特許庁ホームページ)

3. 3 ホームページの充実

図書室では、有用な情報をいち早くキャッチし、「お知らせ」での広報やリンクを作成するなど充実したホームページとなるよう心掛けている。

2005年度はホームページを全面的に見直し、より使いやすいものにリニューアルした。トップページは項目を整理して利用者が一目で分かるように構成し、ホームページを見れば図書室の全てが分かるよう作成した。特に「データベース(情報検索)」ではマニュアルやQ&Aなどを設け、利用者が研究室からも操作しやすいよう配慮した。新しい機能としては、図書館システムの更新に伴い「MyLibrary」が追加され、利用者が各種図書館サービス・電子ジャーナル・データベースなどを効率的に利用できるよう「個人」のページが作成できるようになった。英語版についても、図書電子化委員の協力のもと簡易版を改め日本語版に対応した詳細版を作成した。

また、外国雑誌の電子ジャーナル化が進む中、Online Journal のリンク集(金研版)は毎月係員全員でリンクチェックを行うなどきめ細かなメンテナンスを行い、利用に支障のないようにしている。その他にも、冊子体の新

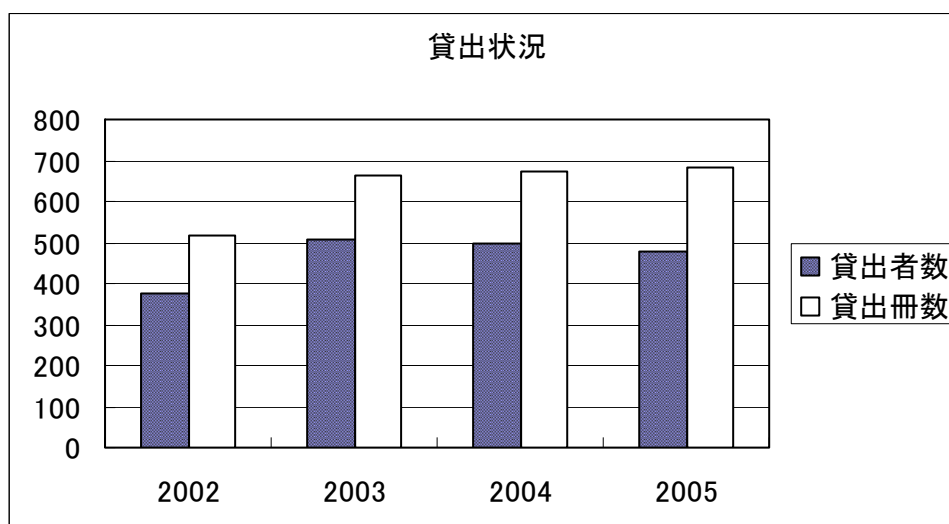
着状況を確認できるリンクや利用上のルール案内なども掲載している。

さらに、他にあまり例のない国際会議録のページについては、金研に関連する43会議について、過去の会議録を追跡調査し、最新の所蔵情報も継続して掲載するようメンテナンスを行っている。

3. 4 その他

図書室に設置している、4台のコピー機のコピーカードの管理は各研究室に依頼しているが、その状況を把握するため毎年調査を行っている。

また、電子ジャーナルやデータベース等、電子化されたデータの利用が増大する中で、下図の貸出状況で示されているように、単行本の利用も少しずつではあるが増加している。これは蔵書の充実を示しているものと思われる。さらに、本分館・各図書室間の図書を取り寄せ・返送することができる、キャンパス間資料搬送(取寄貸出・返却返送)サービスについて実施に向け話し合いが進められている。このサービスに図書室として参加するか否かは現在検討の段階であるが、仮に参加した場合貸出冊数は確実に増加すると思われる。

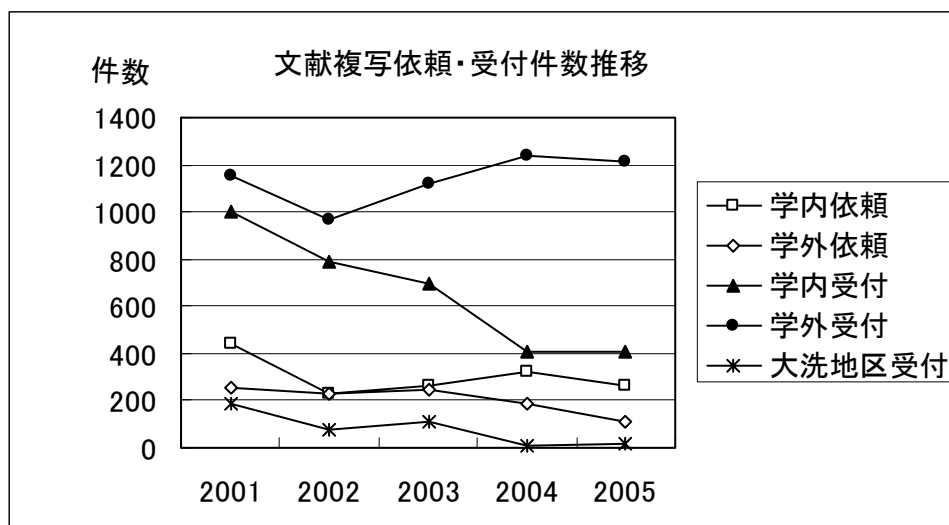


4. 文献複写 (図書館間相互利用サービス)

学内の各図書館および学外の大学図書館との相互の文献複写サービスは、研究上、学術雑誌論文が欠かせない金研においては重要な業務であり、必要な論文を依頼から1週間以内で利用者に手渡せるよう迅速に処理している。学術雑誌の電子ジャーナル化促進の影響で全国的に相互利用の件数は減少傾向にあるが、金研は主要な学術雑誌のコレクションが充実しているため、2005年度は学内について受付件数が依頼件数の約1.5倍、学外においては10倍以上となっており、図書室の業務の中で占める割合も年々増加している。

文献を画像化してオンラインで送受信する画像伝送システムも学内を中心に利用されているが、画像化処理にかかる時間、カラー非対応、著作権等、問題がある。距離に関係なく即時にFAXよりも鮮明な状態で入手できるという利点はあるものの、本分館では複合機の導入が計画されているため金研としてもその切り替え時期について検討中である。

今後の課題としては、現物貸借や私費複写の対応など、サービス範囲拡大について検討する必要がある。



	依頼			受付			
	学内	学外	計	学内	学外	大洗地区	計
2001 年度	439	256	695	998	1,154	189	2,341
2002 年度	232(2)	226	458(2)	792	967	79	1,838
2003 年度	259(36)	249(1)	508(37)	699(57)	1,118(16)	108	1,925(73)
2004 年度	320(88)	190(1)	510(89)	410(33)	1,236(19)	10	1,656(52)
2005 年度	260(54)	108(8)	368(62)	411(9)	1,217(11)	13	1,641(20)

- * ()は画像伝送システムによる件数(内数)
- * 大洗地区は金研附属施設からの依頼に対する送付
- * 学外からの現物借用件数は含まず

5. 蔵書管理

書庫の蔵書点検は年2回行い、所在の確認をしている。

5. 1 図書の充実

限られた予算の中で常に図書の充実を図っている。継続購入としては、国際会議録の欠号補充や新刊の追加、個人で購入しにくいシリーズものや *Material Science Forum* (所内の教員が執筆したものを中心) などを購入しており、その点数は約 30 点に上る。また、他大学に対し複写依頼の多いものや物質材料系の基本的な図書(日本金属学会刊行物など)、図書電子化委員から推薦のあったものや新刊カタログなどを元に充実を図っている。

5. 2 配架整備

2号館書庫が手狭になってきたことから、2005年度は一部の製本雑誌を3号館書庫に移動させる作業を行った。アルバイトを6人雇い1週間がかりで大移動を行い数年分の配架スペースを確保した。また、8月に起きた地震の被害については、3号館書庫内の図書が100冊ほど落下したが、破損はほとんどなく翌日全ての配架を終えることができた。

5. 3 遡及入力

電算化される前に受入れた資料を図書館所蔵データベースへ登録する遡及入力は、2003年度から行っていた215号室資料(1960年以前に登録された図書)の入力が終了した。研究室からの返却図書はその都度遡及入力し検索可能としているが、2005年度は研究室所蔵の図書約2万冊について遡及入力を始めた。来年度以降図書資産実査が計画されているが、遡及入力することによって実査や図書の管理が容易になると思われる。研究室所蔵図書の遡及入力については学内でもまだ実施されておらず、金研が初めてである。

5. 4 金研出版物の保存

金研で発行する報告書や広報誌などは、可能な限り収集し、図書室で保存している。しかし、過去の欠号補充が困難なものもあり、スペースの問題も含めて、今後検討が必要である。

6. その他

研究支援の場としての役割が益々重要となり、図書室は利用者のニーズに応えるべく多様なサービスが求められることから、研究会、勉強会に積極的に参加している。また、図書系職員として附属図書館が中心になって進めている、各種委員会やワーキンググループのメンバーの一員として活動している。

6. 1 研修、勉強会

- ・図書館新システム説明会
- ・各種DB説明会
- ・会計基準研修
- ・フレッシュパーソンセミナー

6. 2 各種委員会、ワーキンググループ

- ・図書受入担当者会議
- ・学術情報整備検討WG
- ・学術情報発信WG
- ・目録WG
- ・図書WG
- ・図書資産実査検討WG